

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 10 日現在

機関番号：22304

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20592546

研究課題名 (和文) がん化学療法患者の味覚障害および生活への影響軽減に向けた看護プログラムの開発

研究課題名 (英文) Development of a nursing program for chemotherapy-induced taste changes

研究代表者

狩野 太郎 (KANO TARO)

群馬県立県民健康科学大学

研究者番号：30312896

研究分野：臨床看護学 地域・老年看護学

科研費の分科・細目：看護学 臨床看護学

キーワード：化学療法 味覚障害 介入プログラム がん看護学

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、化学療法により味覚変化が出現しているがん患者に対する、症状の軽減及び対処能力の向上に向けた看護プログラムの開発である。

本研究では、筆者が開発した味覚変化評価スケールを用いて、味覚変化症状の評価と食に関する困り事、対処能力に関する実態調査を行う。また、すでに味覚変化を自覚している患者に評価スケールを適用し、味覚変化症状のタイプや対処能力・サポート体制など、個々の患者の特性に合わせた介入を行い、評価スケールを用いて再評価することで介入効果を明らかにする実証研究を行う。

これらの研究成果を統合し、評価スケールを用いた「アセスメント」、「介入」、「評価」、からなる看護プログラムを提示するのが本研究の目標である。

2. 研究の進捗状況

平成 22 年度までに実態調査の実施・分析により、味覚変化症状や食に関する困り事などの類型化、化学療法レジメンごとの特徴を明らかにした。また、味覚変化出現時の対処法については面接調査を行い、質的帰納的分析により、概念枠組みを提示した (投稿中)。

3. 現在までの達成度

介入研究については対象者の確保等に時間を要しているものの、実態調査による症状パターンの実態把握と、これに応じた対処・介入方法が明確となっており、概ね順調に進行している。

4. 今後の研究の推進方策

介入研究対象者を確保するためのリクル

ート活動を積極的に行い、目標ケース数の確保を行ってゆく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

狩野太郎：化学療法を受けるがん患者の味覚変化の見極め方と対処のポイント，看護学雑誌，74(7)，2010.

[学会発表] (計 3 件)

T. KANO, T. ITO, A. TAKEI, K. KANDA: Analysis of appearance of taste change and related factors in cancer patients undergoing chemotherapy, 15th International Conference on Cancer Nursing, Singapore, 2008.

狩野太郎, 神田清子：化学療法患者の味覚変化症状の分類と随伴症状の関連に関する実態調査，第 24 回日本がん看護学会学術集会，静岡市，2010.

狩野太郎, 神田清子：化学療法にともなう味覚変化に対する症状評価スケールの開発，第 25 回日本がん看護学会学術集会，神戸市，2011.

[図書] (計 1 件)

池田稔 編：やさしい味覚障害の自己管理，狩野太郎 (分担執筆) 13 章 がん化学療法による味覚障害，p37-40，医薬ジャーナル，2009.

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

なし